



説教	今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した	白井 献	1
教会の課題	出版局の過去・現在・将来	藤田 浩喜	2
旧約聖書に聴く	現代に何を語るか ダニエル書(2)	古賀 清敬	3
■	信仰問答を学ぶ 歴史の中の信仰問答(1)	渡辺 信夫	4
■	教会、この地とともに⑩ 釧路教会 困難の中でこそ語られる福音	日野 正樹	5
目次	三浦綾子の生涯と作品について(1) 愛の証しの文学 すべては「道ありき」から始まる	森下 辰衛	6
■	こいのにあ 全国長老交流会報告 これからの教会、わたしたち長老の役割とは	酒井 恭子	7
■	こいのにあ 全国教職者会の報告 新しい聖書翻訳について	黒田 浩史	7
■	こいのにあ 府中中河原教会建設式・牧師就職式 主が定めたもうた今この時	玉山美保子	8
■	野村昌男先生追悼文 真理に捕えられた人	森田 幸男	8

今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した

主の恵みの年を告げるためである。イエスは巻物を巻き、係の者に返して席に座られた。会堂にいるすべての人の目がイエスに注がれていた。そこでイエスは、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と話し始められた。
(ルカによる福音書4章19-21節)

しら い けん
白 井 献

ルカによる福音書の著者ルカは、1章の初めの「献呈の言葉」の中に「わたしもすべての事を初めから詳しく調べていますので、順序正しく書いてあなたに献呈するのがよいと思いました。お受けになった教えが確実なものであることを、よく分かっていたいただきたいのであります」(3-4節)とありますように、主イエスの福音を、順序に特別な関心を払いながら記しています。

順序正しく、ということ、何がその順序の最初に来るのかというと、それは「礼拝」です。ルカは、1章のこの献呈の言葉に続いて、エルサレムの神殿で、バプテスマのヨハネの父ザカリアが祭司として神殿で礼拝をし、香を焚いている場面を詳細に述べています。これがこの福音書の最初です。

4章は、主イエスが育てられたナザレの会堂での礼拝でのことです。主は安息日の会堂の礼拝において、聖書の中の預言者の言葉『「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、捕われている人に解放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである』」(18-19節)と朗読され、席に座られて会堂にいる人々の目が一斉に注がれる中、驚くべき言葉を発されます。「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と仰ったのです。これは原文では「今日」が最初に来ており、「今日」が強調されています。

ルカは、「今日」という言葉を、神の救いの力が

現れた時を表すときに使っていて、「今日、あなたがたのために救い主がお生まれになった」(2:11)と御使いがクリスマスの夜告げましたし、この後、徴税人ザアカイに向かって「今日、救いがこの家を訪れた」(19:9)と宣言されましたし、ついに十字架にお架かりになったとき、隣りの強盗に「あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」(23:42)と声をかけられました。

この「今日」とは人々にとって、今まで聞いてきたのとは全く違った「今日」でした。それまでの「今日」とは違う、新しい初めとなるような「今日」でした。それは、イエス・キリストのご臨在を通して神の救いの力が満ち満ちている、この場で聖書の約束は成就した、という「今日」だからです。

ルカが、物語のそれぞれの重要場面で「今日」を強調するのは、そこに順序の初めとなるべき、全く新しい初めがあるのであって、それが神の恵みとして与えられているのだと言っているのです。

聖書の約束の実現・成就とは主イエスのご生涯全てを貫いているテーマです。そのご生涯の中でなされたすべての業が、「今日」という日の内容です。わたしたちはその「今日」という日に含まれた内容を、わたしたちのために歩んでくださった主イエスのすべての救いの業を、「今日」、恵みとして与えられます。それに続いて、わたしたちの歩みが「今日」から始められるのです。

そのような全く新しい「今日」は、礼拝において実現し、そこで恵みとしてわたしたちに与えられるのが、福音なのです。(鎌倉栄光教会牧師)